

Rainbow Times

Children's Rainbow Center Newsletter

Vol.6 Autumn-Winter 2005



INDEX★TOPICS

平成 17 年度上半期に実施した研修について報告します！

特別公開講座「被虐待児とその親に対するアメリカのケアシステムと
ケアの実際」が開催されました！

「*OnemoreTime, OnemoreSakuragicho*」は、「野毛」界隈の紹介です。

この **Rainbow Times** は研修参加者との交流のための新聞です。
研修参加者のみなさんからの積極的な投稿をお待ちしております。

☆ 平成17年度研修 上半期報告！

今回は、平成17年度上半期に行われた研修を報告します。

児童相談所長研修は、昨年の児童福祉法改正に伴い受講が義務化され、厚生労働大臣により告示された基準に基づき実施することになり、前期後期に分けてそれぞれ2泊3日で行うこととしました。本年度は、法改正後初めての研修でもあり、2グループ(第1、第2)合わせて、約102名と多数の参加がありました。

研修内容は、<前期>が、行政説明、虐待の初期対応、少年非行等への理解、市町村との連携等の講義を中心とし、<後期>は事例検討やグループ討議などおもに演習により行いました。

5月末からは、児童相談所・情緒障害児短期治療施設等医師専門研修、新設情緒障害児短期治療施設研修、児童養護施設・乳児院心理担当職員研修と続きました。

医師研修には、毎年参加されるリピーターの参加者も多く、その一方で、今年度は、情短や児相以外にも医療機関のDrの参加がありました。年々参加者の幅が広がってきています。

新設情短研修は、これから開設される情短の職員、今年から情短のスタッフとなった方々が対象です。参加者からの事例検討、「先輩」施設からの事例から学ぶ事例検討、グループ討議等が行われました。

施設心理研修には、84名の心理職が参加され、今年も定員を上まわりました。少人数で行う事例検討など、参加者相互で学びあう色彩がより強い研修となりました。

夏から秋にかけては、市町村で児童虐待に携わる職員を対象とした研修を、横浜(センターで開催)、大阪、札幌、福岡と全国4ヶ所で、1泊2日の日程で実施しました。昨年の児童福祉法の改正により、市町村で行うこととなった児童相談、要保護児童対策地域協議会等がおもなテーマとなりました。

9月には、児童相談所スーパーバイザー研修が、93名という大人数で開催されました。児童相談所スーパーバイザー研修は、昨年度まで年2回実施していたのですが、今年度より1回となった(もう1回は2月に実施されるテーマ別研修「介入の意義と方法」へと再編しました。)こともあり、参加者が集中したようです。この研修は児童虐待対応の最前線で活躍される児童福祉司の研修です。虐待の初期対応、保護者と子どもをつなぐ支援、スーパーバイザーとしての役割、家庭裁判所との連携等、内容は多岐にわたりました。

次号では、今年度の後半に行われた研修について、紹介していきたいと思えます。



(「平成17年度研修」のグループ討議より)

特別公開講座「被虐待児とその親に対するアメリカのケアシステムとケアの実際」

昨年11月は、児童虐待防止推進月間と定められました。センターでは、その取り組みの一環として特別公開講座を実施しております。本年度は、児童養護施設職員指導者研修の最終日(平成17年10月21日・金曜日)にハワイ大学社会事業学部の Ron Matayoshi 氏、Meripa T.Godinet 氏をお招きし、上記の特別公開講座を開催しました。公開講座当日は、児童養護施設研修の78名に加え、児童相談所、法律関係、医療機関などの関係者から申し込みがあった70名の参加も得て、参加者は総勢150名弱と、センターでは過去最大の人数となりました。

まず、Godinet 氏から、「ハワイならびにアメリカにおける児童虐待の実態とケアの実際」について、レクチャーを受けました。発見・保護からケアに至るシステムの流れについて説明があり、虐待した保護者への対応について、さまざまな取り組みが紹介されました。アメリカ合衆国は、多民族国家といわれ、様々な文化的背景を持つ人々の集合体です。ハワイも同様に様々な人々が住んでおり、それぞれの文化的背景を考慮した家族援助のメニューが用意されているということです。なかでも、興味深かったのは、虐待している保護者も含めたケースカンファレンス“OHANA Conference”です。保護者と、その保護者が出席を求めた外部の人々(友達、神父等)と一緒にケース検討会議を行うというものです。虐待している保護者が利用できる資源を使いながら、家族(ハワイ語で“OHANA”)をエンパワーメントするという取り組みが紹介されました。

Matayoshi 氏は、ハワイの自然や文化を随所に盛り込みながら、児童虐待に携わる援助者の養成について、講義していただきました。欧米では、様々な機関の専門家が協働で虐待対応を行う「多職種専門家チーム(MDT:Multidisciplinary Team)」が機能しています。

(子どもの虹情報研修センター「アメリカにおける児童虐待の対応 視察報告書」2003を参照) Matayoshi 氏によると、「ハワイでは、現場に入る前の大学生の時から、様々な学部の学生が集まって児童虐待対応の実習を行うプログラムを始めている」とのことでした。対人援助の場に就職する前から、「協働」という意識を持って、自らの専門性を高めつつも、チームで仕事を行う重要性を体得する大学教育は、日本も取り入れるべきと感じました。

午後のシンポジウムでは、児童養護施設「旭児童ホーム」施設長である伊達直利氏、横浜家庭裁判所主任家庭裁判所調査官の藤川浩氏に加わっていただき、日米における虐待を受けた子どもとその親へのケアについて、意見交換を行いました。伊達先生からは、子どもへの援助について、藤川先生からは、保護者支援の現状と課題についての発題がありました。

意見交換後も、フロアからは多くの質問が出され、とても有意義な1日となりました。

Matayoshi 先生、Godinet 先生、シンポジストの伊達先生、藤川先生、本当にありがとうございました。ALOHA!!



午後のシンポジウムの一幕

OneMoreTime,OneMoreSakuragicho(桜木町)

ここでは、研修参加者が宿泊するホテル「東横イン横浜桜木町」のある桜木町を中心に、横浜の最新情報をお届けします。コーナータイトルは、山崎まさよしの曲名をアレンジしました。(お借りします)

#5 桜木町界隈の粋な楽しみ方 「野毛」

今までここでは、横浜のみなとみらい地区を紹介することが多かったのですが、ここ桜木町には、駅をはさんで、「野毛」というお薦めスポットがあります。「野毛」には、ライトアップされた観覧車はないけど、人情味あふれる美味しい料理屋や居酒屋、不思議なラーメン屋、雰囲気の良いバーといろいろあります。また、「野毛山動物園」や「横浜にぎわい座」という寄席まであるんですよ。

初めての人はお店を知らないと、なかなか行きにくいかもしれませんが、穴場の情報をセンタ-のスタッフから仕入れて、是非とも、桜木町界隈のもう1つの顔、「野毛」で、粋な時間をお過ごし下さい。これからは、秋も深まり、寒くなってくると、ますます野毛はお勧めです。

(今後も、新しい情報は是非取り上げて行きたいと思っています。みなさんのお勧めスポットの情報も募集しています。)



「野毛小路」にも美味しいお店が...



編集者のつぶやき...

「RainbowTimes」Vol.6です。本当は夏に発行する予定でしたが、ずいぶんと発刊が遅れてしまい、申し訳ありませんでした。季節は秋も深まり、横浜も、紅葉の美しい季節となってきました。

記事でも紹介していますが、今年は市町村セミナーで大阪、北海道、福岡に向いて研修を行いました。(8月の「大阪」は暑かった...)市町村セミナーでは、ふだん研修でお会いする機会の少ない方々と出会えることも楽しみです。市町村における児童家庭相談事業が始まって間もない時期で、苦労も多いと思いますが、頑張ってください。(市町村セミナーを受講した方へのメッセージになってしまいましたが、ご容赦ください。)

この新聞は、これからも季節ごとに発行していくよう頑張ります。もちろん、みなさんからの投稿が紙面を盛り上げます。ご投稿をお待ちしております。(hiro)

Rainbow Times

企画・編集室

〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町983番地 子どもの虹情報研修センター内

TEL 045-871-8011 FAX 045-871-8091 Email info@crc-japan.net